

里庄町地域公共交通計画【概要版】

～暮らしを支え、地域に根ざした公共交通で住みやすいまちをめざして～



令和5年3月

里庄町

1 はじめに

1-1. 計画策定の目的

里庄町は、岡山県の南西部に位置し、倉敷・福山の工業地帯のベッドタウンとして令和3年4月現在、人口は1万人台で推移しています。公共交通に関しては、町の中央部に JR 山陽本線の里庄駅があり、駅から浅口市寄島町を結ぶ路線バスが運行しています。また、タクシー事業者も町内で2社営業しており、公共交通の一翼を担っています。

これらを取り巻く環境に目を向けると、自家用車を主体とした生活スタイルの定着により、公共交通の需要の低迷が見込まれます。さらに、高齢社会の進行に伴い、地域に最適な交通手段の確保や高齢者等が外出しやすい交通体系の構築等が課題となっています。

こうしたことを踏まえ、各関係主体の連携のもと、将来にわたって持続可能な公共交通体系の構築に向け、「里庄町地域公共交通計画」を策定します。計画の策定にあたっては、令和2年11月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正法の内容及びSDGsの考え方を踏まえ、町民の移動ニーズを十分に反映させることとします。

1-2. 計画の区域

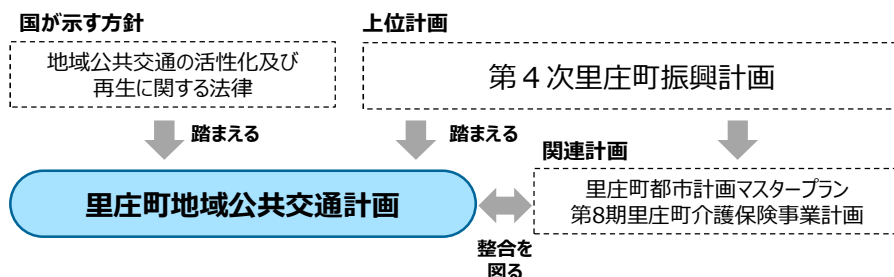
本計画の区域は、里庄町の全域とします。

1-3. 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度～令和9年度の5年間とします。

1-4. 計画の位置づけ

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を踏まえて里庄町において望ましい公共交通のあり方を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。策定においては、「第4次里庄町振興計画」を上位計画に位置付け、関連計画である「里庄町都市計画マスタープラン」及び「第8期里庄町介護保険事業計画」と整合を図ることとします。



1-5. 計画における「公共交通」

本計画では、以下の移動手段を「公共交通」に位置づけます。

- JR 山陽本線
- 路線バス「寄島～里庄線」
- タクシー

2 取り組むべき課題と対応方針

これまでの公共交通に対する調査・分析結果、及び里庄町地域公共交通会議での議論の内容を踏まえ、「取り組むべき課題と対応方針」を、以下のとおり整理しました。

① 交通弱者が安心して生活できる移動手段の確保

- 里庄町はコンパクトなまちであり、町内の目的地には徒歩や自転車で行くことができる一方、それが難しい交通弱者の中には、気軽に外出することが困難な人もいる状況です。
- このような交通弱者が安心して生活できるようにするため、町内のタクシー事業者の既存の資源を活用しながら、移動手段を確保していく必要があります。

② 道路環境を踏まえた適切なサービス内容の検討

- 町内には、道路が非常に狭く入り組んだ区間が随所があり、その周辺にも人口が集積しています。
- この状況を十分に考慮しながら、公共交通のサービス内容を検討する必要があります。

③ 地域の重要な資源であるタクシーの活用

- 現在、町内の交通弱者の移動はタクシーが担っていますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、タクシー事業者を取り巻く環境は厳しさを増しています。
- 今後も、町民が移動に困った時に頼ることができる存在としてタクシー事業者の事業存続を支援する必要があります。

④ JR 里庄駅の機能強化

- 町の中心に位置する JR 里庄駅は、町内の移動手段と町外への移動手段を乗り継ぐ拠点、町外からの来訪者の玄関口として、重要な役割を担っています。
- このような観点から、JR 里庄駅での公共交通に関する情報提供の充実、駅構内のバリアフリー化や駅前整備事業といった利用環境の改善を検討する必要があります。

⑤ 公共交通を持続可能なものとするための取り組み

- 免許を返納した高齢者や移動が困難な妊産婦等が公共施設等を利用しやすい環境を維持するため、地域に密着した公共交通の利用促進やタクシー事業者の収益向上を図り、公共交通を将来にわたって持続可能なものとする必要があります。

3 里庄町における公共交通のめざす姿

町の実情と課題を踏まえたうえで、町のまちづくりの方向性（上位・関連計画）を考慮し、町の公共交通のめざす姿を次のとおり整理します。また、本計画における公共交通の主な対象者は高齢者等の交通弱者を想定するものとします。

3-1. 基本理念

くらしを支え、地域に根ざした公共交通で住みやすいまちをめざして

3-2. 基本方針（基本目標）

基本方針 1 地域の資源を活かし、交通弱者の移動手段を確保する

既存のタクシー料金助成事業の継続・拡充に取り組み、交通弱者が安心して生活するための移動手段を確保します。また、移動手段確保策については今後も検討を続け、時代や環境の変化に柔軟に対応できる公共交通の構築をめざします。

関連する課題と対応方針：①,②,③

基本方針 2 公共交通を利用したくなる環境をつくる

鉄道、路線バス及びタクシーから構成される公共交通ネットワークの中で重要な役割を担う JR 里庄駅について、利用環境の改善を図ります。さらに、情報提供の充実等により、公共交通を利用したくなる環境をつくります。

関連する課題と対応方針：④

基本方針 3 関係者で力を合わせ、持続可能な公共交通を実現する

地域住民同士のつながりを活かし、公共交通の新規利用者の掘り起こしや利用促進に取り組みます。また、広報等による周知や、交通事業者の収益向上につながる仕組みの検討を行い、持続可能な公共交通を実現します。

関連する課題と対応方針：③,⑤

3-3. 里庄町における公共交通の将来像



位置づけ	移動手段	役割	維持・確保の方向性
町外への移動手段	JR山陽本線	通勤・通学等による倉敷方面や福山方面への移動を担う	一定以上の運行水準を確保し、情報提供の充実、バリアフリー化等の検討により利用環境の改善を図る
	タクシー	主に笠岡市・浅口市といった近隣市内の目的地への移動を担う	運賃助成等の利用促進により、運行事業者の事業継続を支援する
	路線バス「寄島～里庄線」	浅口市（旧寄島町）からJR里庄駅への移動を担う	浅口市と協議の上、路線の維持に努める
町内の移動手段	タクシー等	自宅と町内の目的地の間を結ぶ	タクシー料金助成事業の継続・拡充を図るとともに、今後も最適な移動手段を検討し続ける

図表 各移動手段の役割と維持・確保の方向性

4 基本方針を実現するための取組

基本方針 1. 地域の資源を活かし、交通弱者の移動手段を確保する

タクシー料金助成事業の見直し (実施主体：里庄町、交通事業者)



- 高齢者タクシー料金助成事業の対象範囲を拡大し、その後も利用実績等を踏まえて見直しを行います。

Step1▶▶「町民税非課税」の要件を緩和、「一定の要件を満たす子育て世帯」を新設

Step2▶▶利用実績等を踏まえて、制度を適宜見直し

将来に向けた移動手段の検討 (実施主体：里庄町、交通事業者、地域住民等)



- 住民ニーズや環境の変化に柔軟に対応するため、デマンド型交通等の移動手段の導入について引き続き検討します。

基本方針 2. 公共交通を利用したくなる環境をつくる

JR 里庄駅の利用環境の改善 (実施主体：里庄町、交通事業者)



- 駅構内のバリアフリー化や駅前整備事業について、引き続き検討します。
- 駅周辺の町営駐車場を適切に運用し、パーク&ライド機能を維持します。

タクシーを利用したくなる環境づくり (実施主体：里庄町、交通事業者、地域住民等)



- 現在、タクシーの代理予約等を行っている町内の医療機関・商業施設について、必要に応じて協議の上、待合機能の維持を図ります。
- 高齢者や子育て世帯の利用増加が見込まれることを想定し、タクシー事業者が車両等の整備や接客等の研修を行う場合の支援を検討します。

基本方針 3. 関係者で力を合わせ、持続可能な公共交通を実現する

公共交通サービスの検証 (実施主体：里庄町、交通事業者、地域住民等)



- 里庄町地域公共交通会議において、町内の公共交通サービスの効果検証や改善策の検討を行います。
- 路線バス「寄島～里庄線」については浅口市と協議しつつ、路線の維持に努めます。

情報提供等による新規利用者の獲得 (実施主体：里庄町、交通事業者)



- JR 里庄駅やタクシー会社において、観光客やビジネス客を含めた町内外の利用者に対して情報提供を行い、利便性を高め、公共交通の利用を促進します。
- 町内の公共交通やタクシー料金助成事業について、町広報紙「広報さとしょう」を活用した継続的な情報提供を行います。

交通事業者の収益向上策の検討 (実施主体：里庄町、交通事業者)



- 県や JR 西日本と連携し、JR 山陽本線の利用促進について検討します。
- タクシーは町民にとって重要な公共交通であることから、タクシー料金助成事業を引き続き実施して利用促進を図るとともに、タクシー事業者の新たな事業の実施を支援し、収益向上・事業継続を図ります。

5 計画の管理

5-1. 評価指標

基本方針 1 一評価指標① タクシー料金助成事業における助成券の利用率

現状値：63.8%（令和3年度） ▶▶ 目標値：**70.0%**（令和9年度）
 <約10%増>

基本方針 2 一評価指標② JR 里庄駅の平均乗車人員及びタクシー利用者数

【JR 里庄駅】

現状値：1,036 人/日（令和2年度） ▶▶ 目標値：**1,140 人/日**（令和9年度）
 <約10%増>

【タクシー】

現状値：30,000 人/年（令和4年度見込） ▶▶ 目標値：**33,000 人/年**（令和9年度）
 <10%増>

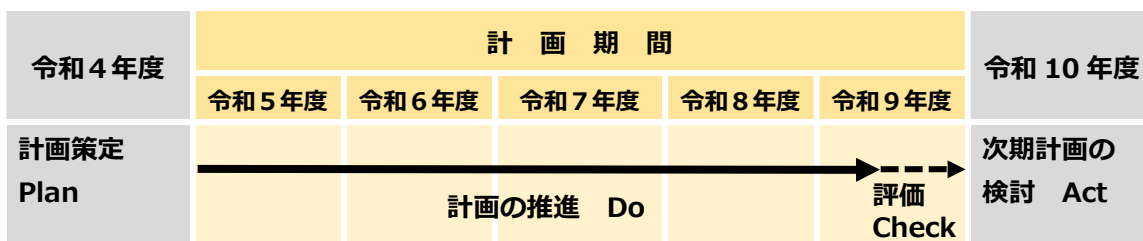
基本方針 3 一評価指標③ 公共交通に関する町の財政負担額

現状値：5,320 千円（令和3年度） ▶▶ 想定値：**20,000 千円**（令和9年度）

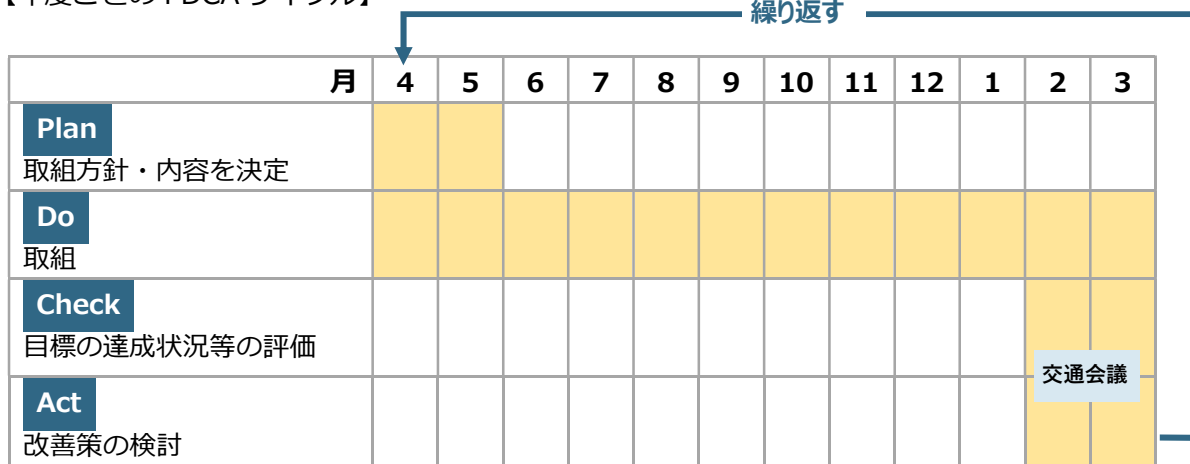
5-2. 計画の推進とモニタリング

本計画の推進・進行管理は、PDCA サイクルの考え方のもと、里庄町地域公共交通会議が行います。計画の推進にあたっては、毎年開催する里庄町地域公共交通会議で年度ごとの達成状況の評価・改善策の検討を行い、必要に応じて計画内容の見直しも検討します。計画の最終年度（令和9年度）には最終評価を行い、次期計画について検討することとします。

【長期的な PDCA サイクル】



【年度ごとの PDCA サイクル】



5-3. スケジュール

基本方針	事業	R5	R6	R7	R8	R9
地域の資源を活かし、交通弱者の移動手段を確保する	タクシー料金助成事業の見直し	Step 1	Step2			
	将来に向けた移動手段の検討	継続実施				
公共交通を利用したくなる環境をつくる	JR 里庄駅の利用環境の改善	実施可能なところから随時実施				
	タクシーを利用したくなる環境づくり	実施可能なところから随時実施				
関係者で力を合わせ、持続可能な公共交通を実現する	公共交通サービスの検証	継続実施				
	情報提供等による新規利用者の獲得	実施可能なところから随時実施				
	交通事業者の収益向上策の検討	実施可能なところから随時実施				

発行：令和5年3月 里庄町役場 企画商工課
 〒719-0398 岡山県浅口郡里庄町大字里見 1107 番地 2
 TEL：0865-64-3114

里庄町が実施する高齢者等を対象としたタクシー料金助成事業や、町内を運行する路線バスの詳細は、以下の Web サイトよりご確認ください。

タクシー料金助成事業についてはこちら



路線バス「寄島～里庄線」についてはこちら

